

明治十九年四月

和歌山縣土佐郡
紀伊國和歌山區西組屋町居住

近江藤直吉



太政大臣三條實美殿

閣下

建白書

武智寛史等謹而


參事院議長山縣公閣下ニ上申ス恭々思惟スルニ方今宇宙ノ形勢タルヤ
 各國相互ニ競争シテ威權ヲ擴張シ各自浸凌ノ素質ヲ含有スルノ秋ナリ茲
 ニ於テ吾カ大日本國モ海外ノ諸強國ト對峙シ文武ノ鋒ヲ争ヒトスルニ際シ
 豈皇威ヲ發耀セサル可キヤ國權ヲ振暢セサル可キヤ是レ今日ノ極大急
 事ト爲ヘシ然リ而シテ論者皆曰ク奈如セン財政困難セリ腕力微弱ナリ之レ
 其枝葉ヲ論シテ未タ根底ヲ推究明知セサルモト云ヘシ如何トナレバ立國ノ体國
 各其宜キヲ異ニス吾カ大日本國ノ如キハ開闢以來天祖ノ勅命ニ因テ天壤
 無窮ノ天皇上位ヲ石ノ玉ニ之ラ書ニ傳ヘテ歷々規ル可ク人心ニ浸潤シテ犯
 ス可ク故ニ世界無比萬世一系ノ皇統聯綿トシテ其分ハ君臣其情

父子四海一家ノ真象ヲ不救ノ國体嚴乎トシテ存セリ然ルニ現今官之ヲ抛
擲シテ臣子ノ方向ヲ迷惑セ令ルモノ、如シ臣民モ亦方向ヲ失シ益私意ヲ
增長シテ爭論軋轉云可ラサルニ至リ殆ト四分五裂ノ前徵ヲ顯サントス誠ニ
憤慨悲泣ニ耐ルノ能ハス斯ク一家ノ實象完然タル 皇國ノ調和セラルハ
何ソヤ單ニ民庶ノ方向ヲ一致セサルニ在ルニ其方向ヲ一ニシ全國調和セ財
本以テ立テ節義以テ起ル夫レ何ソ疑ラ容ル可ケンヤ敢テ民間ニ資財ナシ
ト云可ラス亦義烈腕力無ト云可ラス然レ則テ資財ヲ徵集スル何ソ困難ナ
ラン兵士ノ應募何ソ苦痛セン果シテ然レハ國家財政ハ真正ノ困難ニ非ス
節義腕力モ真正ノ微弱ニ非レナリ然レハ則テ政略ノ大綱指針ノ確乎タラ
カレニ原因スト云ハカルヲ得ス其大綱指針タルモノハ何ソヤ吾カ 皇國古有ノ
神道ハ 天祖立極ノ大道ニシテ則チ 皇道ナルハ神祇官ヲ再興シテ

皇威ヲ光耀シ國体ヲ維持シ國權ヲ擴張ス可キノ要點ヲ宇内人民ニ明示ス
ルニ在ルニ却說神祇官ノ設ケハ 皇威ヲ光揚シ社會臣民ノ帰向ヲ一定シ上
下ヲ調和セ令ルノ指針ナリ國体ヲ揭示シ國權ヲ振賜スルノ大綱ナリ義心因
テ以テ生シ資財因テ以テ出ツ腕力ノ堂々振起スルヤ期テ茲ニ可キナリ又國會
開設ノ期モ近キニ在リ是ニ神祇官ヲ置テ以テ鞏固不抜ナル國体標
準トシ國會ノ政体為政ノ議場ニシテ更ニ國体上ニ關係セラルモ明示ス可
キナリ某等曩日仄カニ聞ク所ニヨレハ廟議既ニ神祇官開設ノ舉アリト之ニ據
テ天下有爲ノ士早天ノ雲霓意ナリガ爾來許多ノ日支ヲ經過シ今ニ至テ
此美譽アルヲ聞ス倍々政府ノ政略上ニ人民ノ猜疑ヲ抱カ令ル一端ヲ増加シタ
リト云ヘシ凡リ施政ノ要點上下ノ調和社會ノ安寧ヲ主眼トス而シテ衆心
一和シ義氣奮勵以テ國權皇張ノ績ヲ見ル可ナリ之レ神祇官ノ興復ヲ

閣下他ニ需ニ可キモノ無クハハシ真ニ國体大本ヲ建テ秩序ヲ紊サス能ク國權伸
張ノ大功ヲ修成ス可キニ素ヨリ方今國家多事ニシテ要急ナル者一ニシテ足スト
雖モ大本ヲ確立シ衆庶ノ方向ヲ一致シ全國ヲ調和セザルハ國權ノ伸暢期
ス可ラス若シ現今ノ氣運ヲ輕視シ此ノ如キ矯正挽回ノ策ニ出スレテ苟且ニ
日月ヲ經過セザル後兄弟墻ニ闚クノ内乱百出シ社會ノ安寧モ亦
保ス可ラス矧ニヤ國權皇張ニ於テマ是レ最急切事此ヨリ甚シキモノハ非セ所
以ナリ其等焦心憂慮昼夜寢食ヲ安スル能ハス仰冀スル閣下ノ賢明ニ
宜シク是ニ注目シ英斷以テ神祇官ヲ復興シ大本ヲ建テ天下衆庶ノ方
向ヲ指示シ未來ノ大患ヲ矯正有ニテ是レ決シテ私策ニ出タルニ非ハ憂國
秉情腔問ニ切シテ黙止スル耐ハサルナリ嚴威ヲ冒瀆シ言不遜ニ涉ル伏テ
高恕ヲ賜ヒテテ請フ誠恐頓首謹言

有志惣代

熊本縣肥後國熊本區東坪井町
士族 園哲雄 

新原縣佐渡國雜太郎河原田町

推少講義 金刺 標 

明治十五年五月十二日

廣島縣安藝國佐伯郡廿日市

推中講義 玉木 嚴雄 

愛媛縣伊豫國温泉郡萱町

推大講義 武智 寛史 

參事院議長山縣有朋殿

權大講義武智寛吏外三名建議神祇官
再興之儀

明治十五年五月十六日 山縣參議

太政大臣殿

左大臣殿

右大臣殿

大木參議殿

郷參議殿

太政大臣

井上参議殿

山田参議殿

松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

福岡参議殿

佐々木参議殿

伏テ惟ルニ明治廿三年國會開設ニ先キ官必ス
 憲法ノ成定アルヘシ此時ニ當テ 皇統無窮ノ國
 体ヲ維持シ万世不變ノ基礎ヲ建サル可カラス
 之ヲ建ルニ用アリ用トハ何ッヤ曰ク恭敬ノ心ナリ此心
 ヲ養成スルノ術ハ何ッヤ曰ク神祇官是ナリ古人
 エルアリ父ヲ敬フ事天ノ如ク母ヲ敬フ事地ノ如シ
 汝ノ子孫浸々斯ノ如シ夫レ我 皇祖天神
 ハ吾人萬生ノ高祖ナリ此高祖ヲ恭敬セラル、
 道ヲ立テ以テ蒼生ニ此道ヲ及ホセハ蒼生何ッ
 以テ上ヲ恭敬セサル可カラサシヤ若シ之ニ反シ
 テ無道ニ恭敬ヲ要ムルトモ得ヘカラス可シ故ニ
 外ハ則公明ノ議事ヲ以テ法ヲ立テ祭事ヲ以テ
 之ヲ定ムレハ祭事即政ナル故事ニ適ヒ以テ人民